

2022年3月期第3四半期 連結決算説明会

2022年2月18日



株式会社 シード



東証一部上場

証券コード
7743

1. 2022年3月期第3四半期 決算概要
2. 2022年3月期第3四半期 トピックス
3. プライム市場の上場維持基準適合状況および計画期間
4. 2022年3月期 見通し
5. 参考資料

- 1. 2022年3月期第3四半期 決算概要**
2. 2022年3月期第3四半期 トピックス
3. プライム市場の上場維持基準適合状況および計画期間
4. 2022年3月期 見通し
5. 参考資料

国内

- ・9月末緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置が解除され、経済活動一時的に回復したが、年末よりオミクロン株の感染拡大、供給制約、資源高などによって不透明な状況が継続

海外

- ・欧州諸国・東南アジア諸国・インド・オーストラリア等では依然新型コロナウイルスの影響により、経済活動の制約が継続
- ・中国においてはいち早く回復と成長を示しものの、オミクロン株の感染拡大により、不確実性が継続



環境変化に適応した対応の強化

- 他県を跨る移動等が制限される中、WEB等を併用した営業活動を展開
- テレビCMやSNS、雑誌タイアップを通じた広告宣伝を行う等、消費者への直接の需要喚起を実施
- 遠近両用コンタクトレンズやオルソケラトロジーレンズ等の成長性のある高付加価値商品の拡販に注力

2022年3月期第3四半期連結決算ハイライト

| 連結 | [百万円] 百万円未満切捨て | 2020/3期 3Q | 2021/3期 3Q | 2022/3期 3Q | 前期比較 | | 2022/3期 通期見通し | 進捗率 |
|----------------------|-------------------|------------|------------|---------------------|------|--------|---------------------|--------|
| | | | | | 増減額 | 増減率 | | |
| 売上高 | | 24,038 | 21,201 | 21,384 | +182 | +0.9% | 29,500 | 72.5% |
| | | | | 21,954 [※] | +752 | +3.5% | 30,210 [※] | 72.7% |
| 営業利益 | | 1,450 | 1,390 | 967 | △422 | △30.4% | 1,250 | 77.4% |
| (営業利益率) | | 6.0% | 6.6% | 4.5% | - | △2.1% | 4.2% | - |
| 経常利益 | | 1,383 | 1,343 | 931 | △411 | △30.7% | 1,150 | 81.0% |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | | 711 | 787 | 607 | △180 | △22.9% | 600 | 101.2% |

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等適用前とした場合の売上高です。営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益への影響はありません。

売上高

- ・ワンデーピュアの近視・遠視用、遠近両用コンタクトレンズをドライバーとし、国内外ともに増収
- ・依然新型コロナウイルスの影響が残り、2020/3期の水準には届かず

営業利益

- ・本社建て替えによる一過性の減価償却費など、WEB広告などの広告費用・営業経費・人件費増加

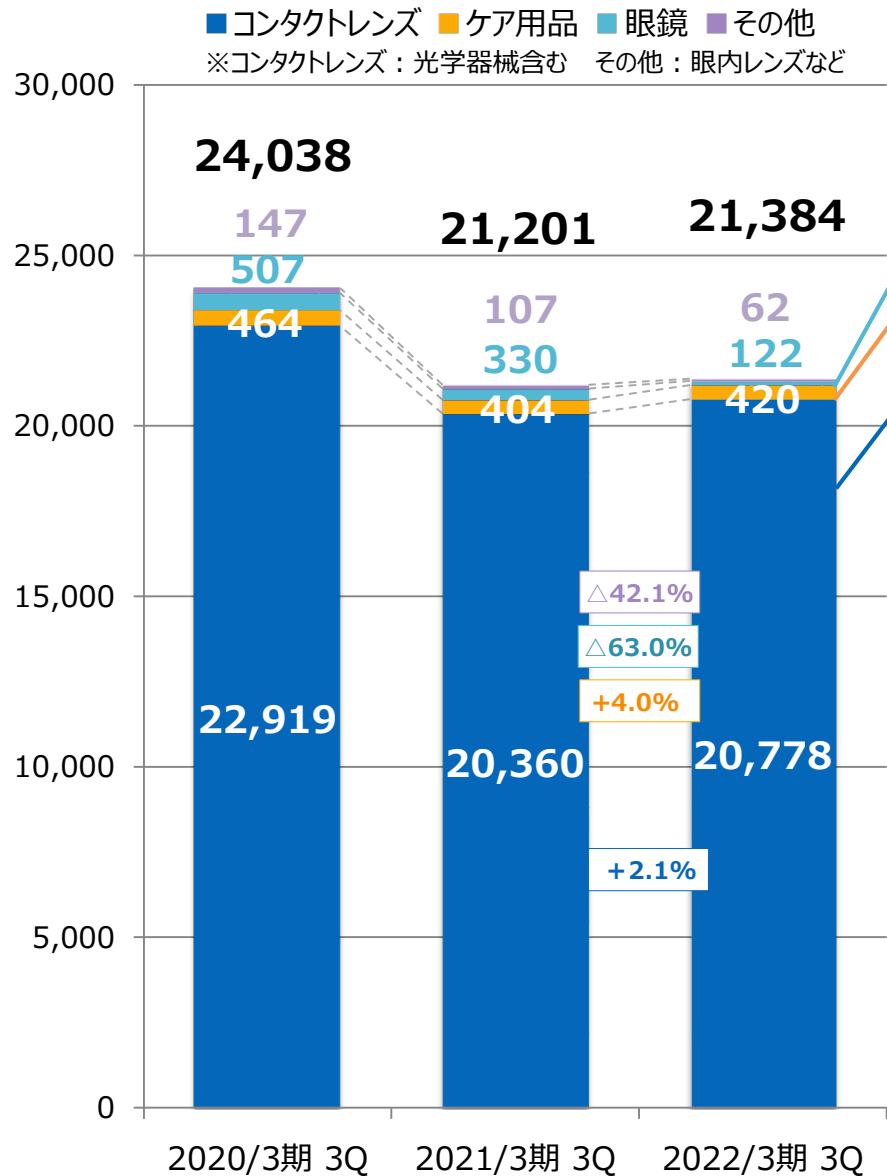
通期見通し

- ・通期見通しに対し、売上高等の進捗率は75.0%を割ったが、4Qに挽回予定
- ・四半期純利益は既に通期業績予想を達成しているが、オミクロン株の感染拡大等により、その影響については合理的な予測が困難であることから、通期見通しは据え置き

事業別売上高

連結

[百万円]
百万円未満切捨て

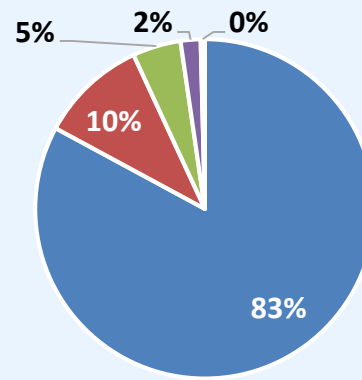


✓ 新型コロナウイルス感染症の影響により市場の低迷

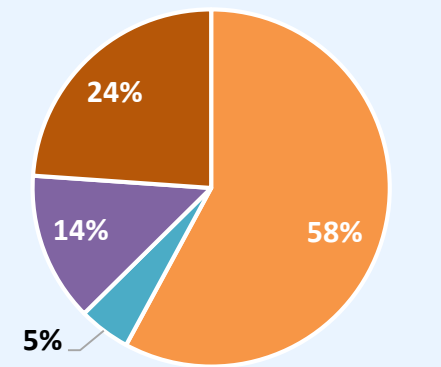
✓ 一日使い捨てタイプへのシフトによるケア用品市場縮小

✓ コンタクトレンズ全体の売上は計画通りに推移

売上高カテゴリー比率



売上高1dayカテゴリー比率



カテゴリー別対前期増減比率 (単体卸売ベース)

| | | | |
|-----------|--------|----------|--------|
| ワンデーピュア | 9.8%増 | 2ウィークピュア | 4.3%増 |
| ワンデーファイン | 5.9%減 | サークル・カラー | 6.1%増 |
| オルソケラトロジー | 38.7%増 | 遠近両用 | 12.9%増 |

※ワンデーファイン以外はシリーズ合計

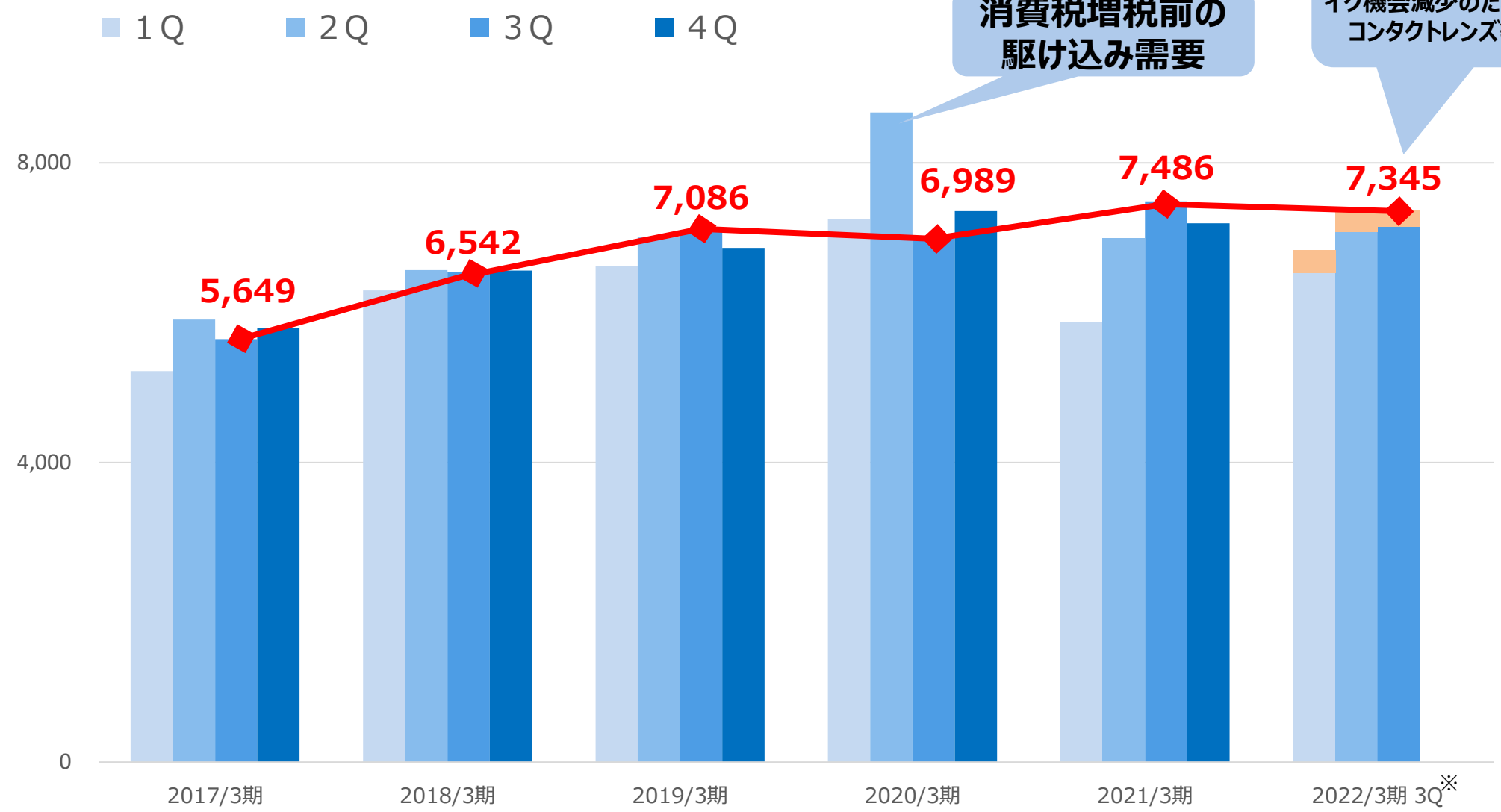
※遠近両用は使い捨てとコンベンショナル合計 (東レ製品は除く)

※2021年3月期以前については、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等適用前の数値

コンタクトレンズ事業売上高 四半期推移

連結 ※卸売りベース

[百万円]
百万円未満切捨て

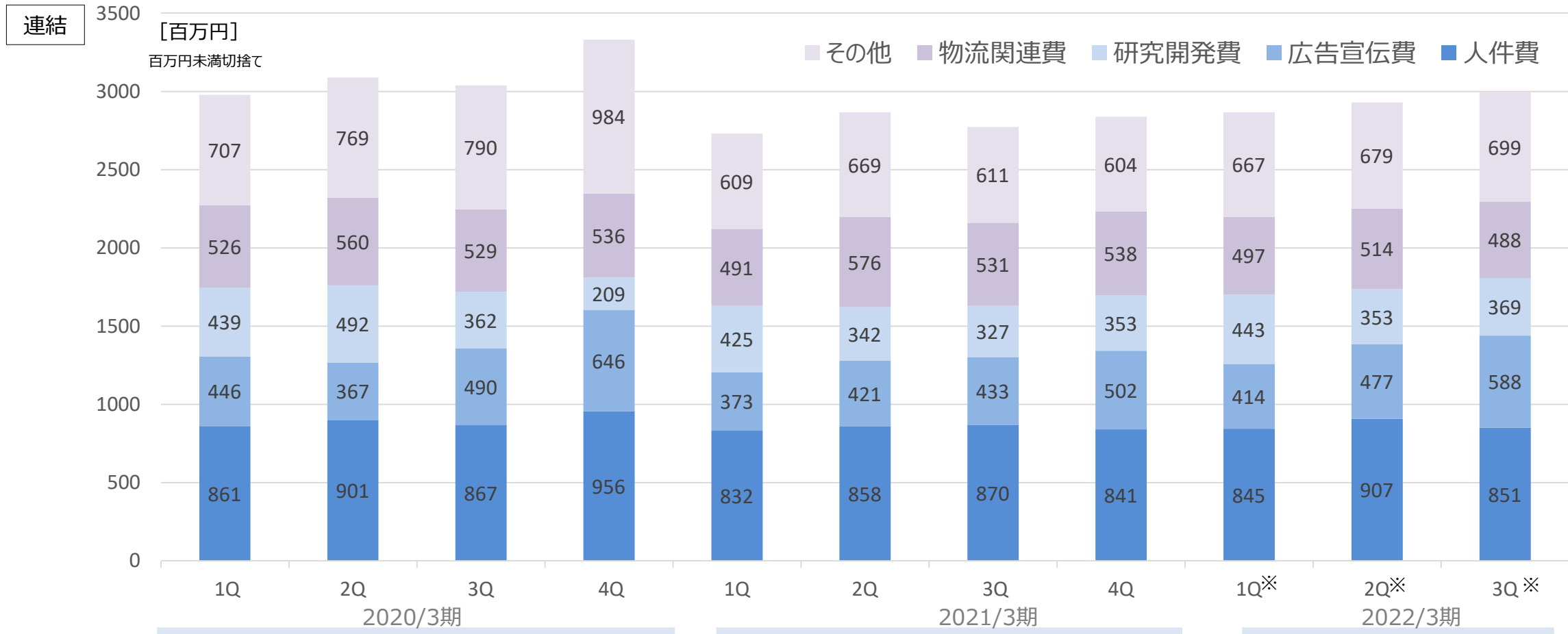


消費税増税前の
駆け込み需要

在宅勤務の定着やマスク着用によるメイク機会減少のため、サークル・カラーコンタクトレンズ等の需要が減退

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等適用前とした場合

販管費の状況



- 人件費 : 時間外手当の増加及び社員数増加に伴い、前年同期比累計では増加
- 広告宣伝費 : 売上高向上のための各種施策実施により前年同期比で増加
- その他 : 旅費交通費、新商品のトライアルレンズ費用、本社建て替え計画による減価償却費など
- 物流関連費 : 海外出荷数の減少に伴い、前年同期比では減少
- 研究開発費 : 新商品開発を計画通りに実施。委託研究費等繰り上げ

※「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等適用前とした場合

連結

[百万円]
百万円未満切捨て

| | 2021/3期 | | 2022/3期 3Q | | 前期比較 |
|----------------|---------------|--------------|---------------|--------------|-------------|
| | 金額 | 構成比 | 金額 | 構成比 | |
| 資産の部計 | 41,261 | 100.0 | 42,141 | 100.0 | +880 |
| 流動資産 | 17,106 | 41.5 | 17,812 | 42.3 | +706 |
| 内 現預金 | 3,955 | 9.6 | 4,821 | 11.4 | +866 |
| 商品及び製品 | 5,772 | 14.0 | 6,128 | 14.5 | +355 |
| 貸倒引当金 | △103 | - | △167 | - | △63 |
| 固定資産 | 24,155 | 58.5 | 24,329 | 57.7 | +173 |
| 内 有形固定資産 | 20,588 | 49.9 | 20,395 | 48.4 | △193 |
| 無形固定資産 | 1,045 | 2.5 | 1,922 | 4.6 | +876 |
| 負債の部計 | 29,606 | 71.7 | 30,141 | 71.5 | +534 |
| 流動負債 | 16,904 | 41.0 | 17,041 | 40.4 | +137 |
| 内 短期借入金 | 12,048 | 29.2 | 11,925 | 28.3 | △123 |
| 短期リース債務 | 1,271 | 3.1 | 1,066 | 2.5 | △204 |
| 固定負債 | 12,702 | 30.8 | 13,099 | 31.1 | +396 |
| 内 長期借入金 | 7,159 | 17.4 | 6,868 | 16.3 | △291 |
| 長期リース債務 | 2,378 | 5.8 | 2,773 | 6.6 | +394 |
| 純資産の部計 | 11,654 | 28.2 | 12,000 | 28.5 | +346 |
| 負債・純資産計 | 41,261 | 100.0 | 42,141 | 100.0 | +880 |

安定供給のため、
製品在庫の増加

ユニバーサルビューの
子会社化により、のれん増加

・借入金の返済
・製造エリア拡大工事に伴い
支払債務増加

連結

[百万円]

百万円未満切捨て

| | 2021/3期 3Q | 2022/3期 3Q | 前期比較 |
|--------------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 営業活動によるC・F | 1,824 | 3,058 | +1,234 |
| 内 税金等調整前四半期純利益 | 1,196 | 1,208 | +12 |
| 減価償却費 | 1,987 | 2,066 | +79 |
| 棚卸資産の増減額 (△は増加) | △874 | △377 | +496 |
| 仕入債務の増減額 (△は減少) | 213 | 201 | △11 |
| 投資活動によるC・F | △1,948 | △562 | +1,386 |
| 内 連結の範囲の変更を伴う 子会社株式の取得による支出 | - | △410 | △410 |
| 有形固定資産取得 | △1,917 | △838 | +1,078 |
| 無形固定資産の取得 | △16 | △11 | +5 |
| 財務活動によるC・F | 1,505 | △1,586 | △3,091 |
| 内 短期借入金の純増減額 | △1,370 | 180 | +1,551 |
| 長期借入金の借入 | 5,653 | 542 | △5,111 |
| 長期借入金の返済 | △1,711 | △1,289 | +422 |
| リース債務の返済による支出 | △739 | △739 | +0 |
| 現金及び現金同等物 四半期末残高 | 5,010 | 4,811 | △198 |

在庫の適正化

・事業譲渡による収入

ユニバーサルビューの株式取得

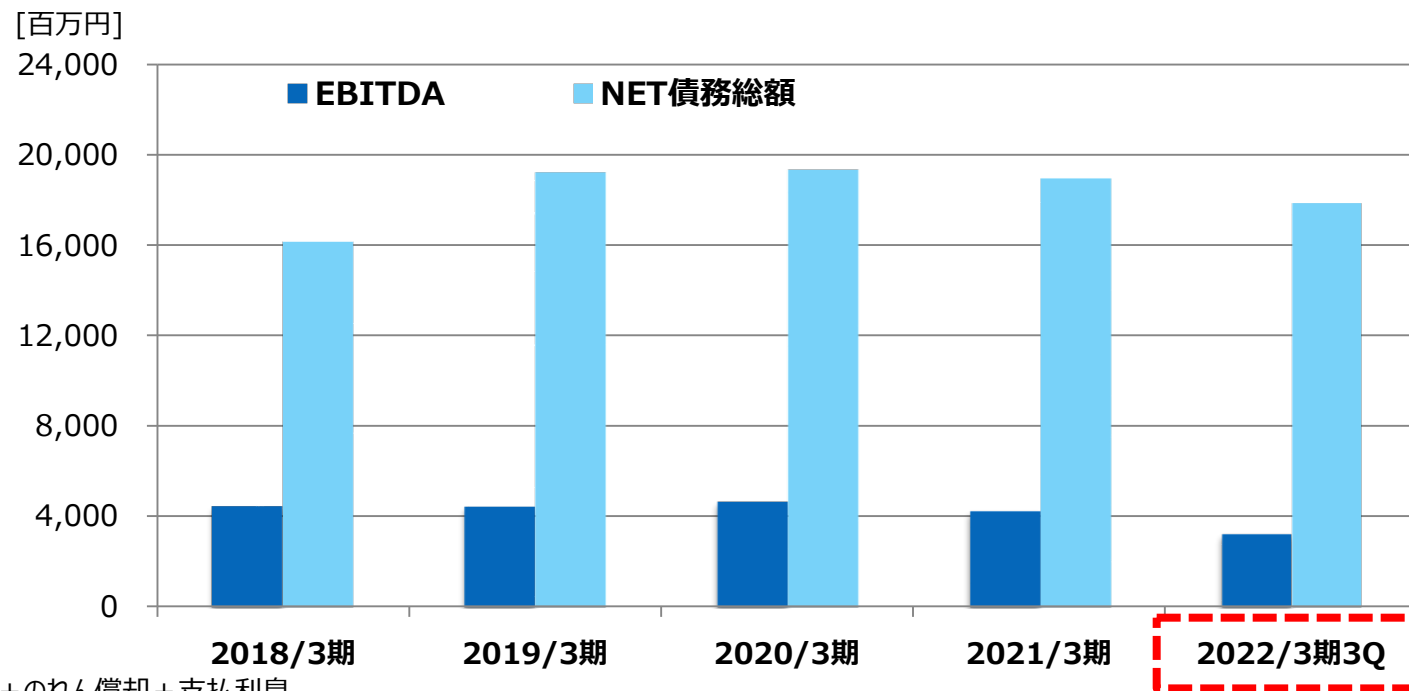
製造エリア拡大工事等により
有形固定資産の取得

・前期はコロナ対策融資
・ユニバーサルビューの株式取得

連結 [百万円] 百万円未満切捨て

| | 2017/3期 | 2018/3期 | 2019/3期 | 2020/3期 | 2021/3期 | 2021/3期 3Q | 2022/3期 3Q |
|---------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| EBITDA | 3,406 | 4,422 | 4,415 | 4,621 | 4,218 | 3,546 | 3,208 |
| EBITDAマージン EBITDA÷売上高 | 13.9% | 15.9% | 15.0% | 14.5% | 14.7% | 16.7% | 15.0% |

※2021年3月期以前については、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等適用前の数値

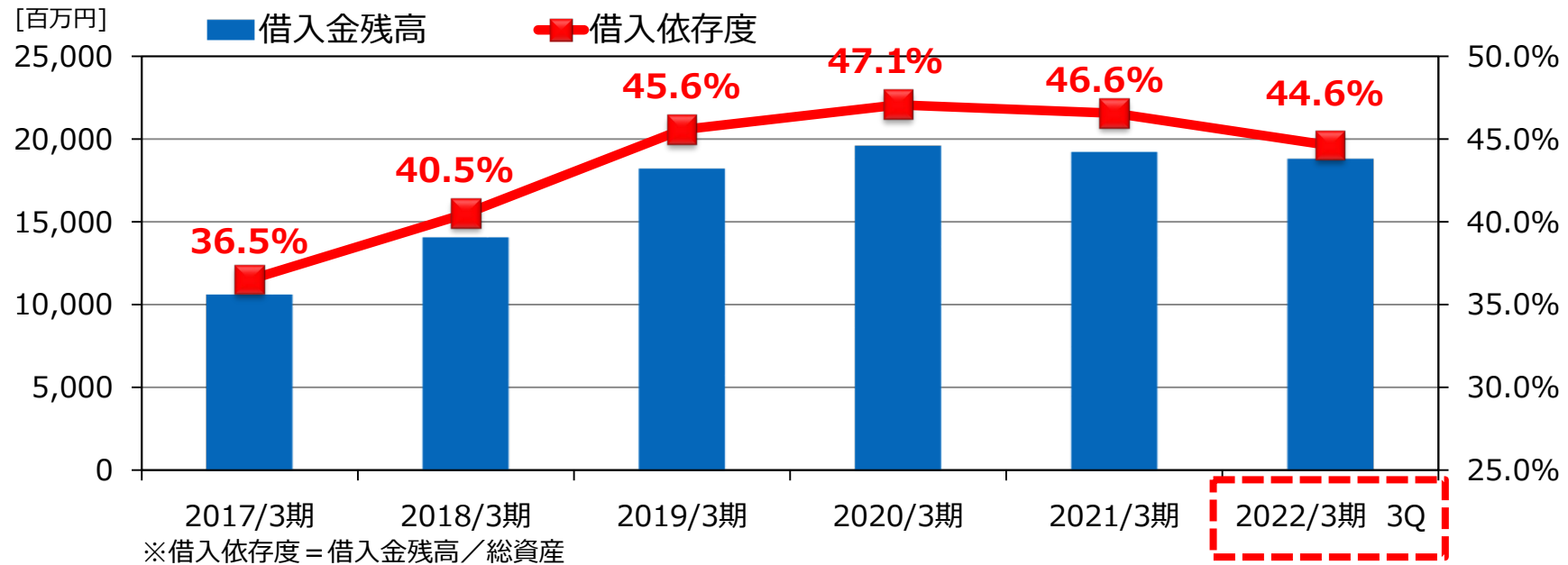


※EBITDA=経常利益+減価償却費+のれん償却+支払利息

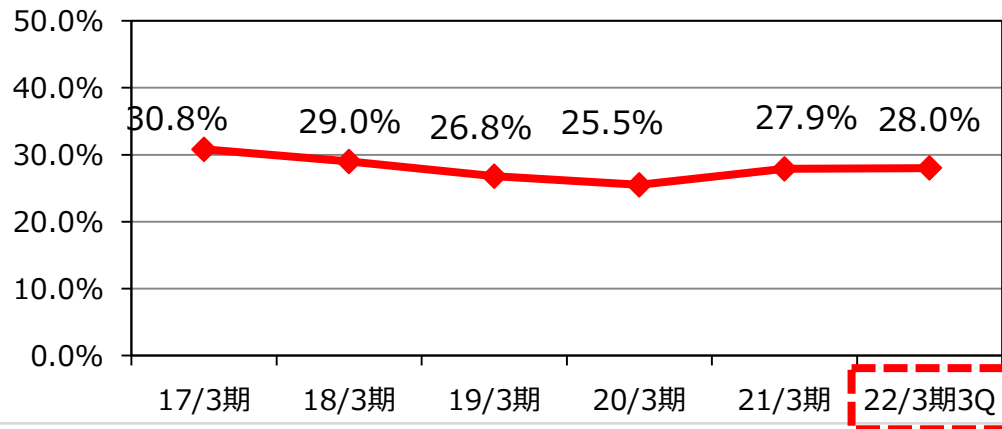
※NET債務総額=有利子負債+リース債務-現預金

連結

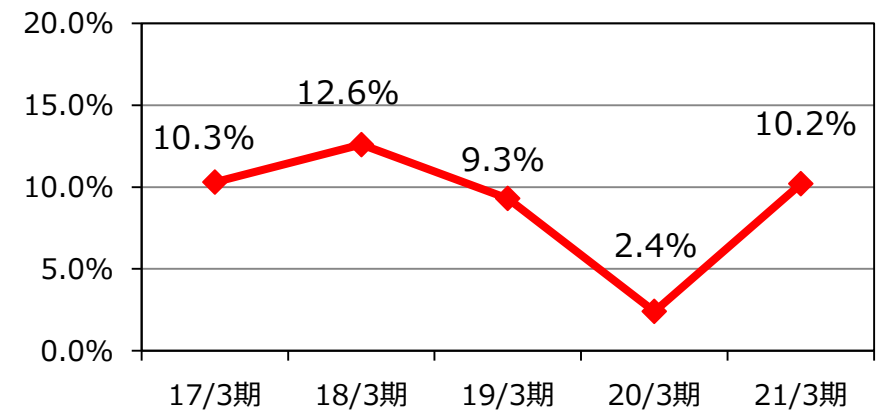
◆借入金の推移



◆自己資本比率

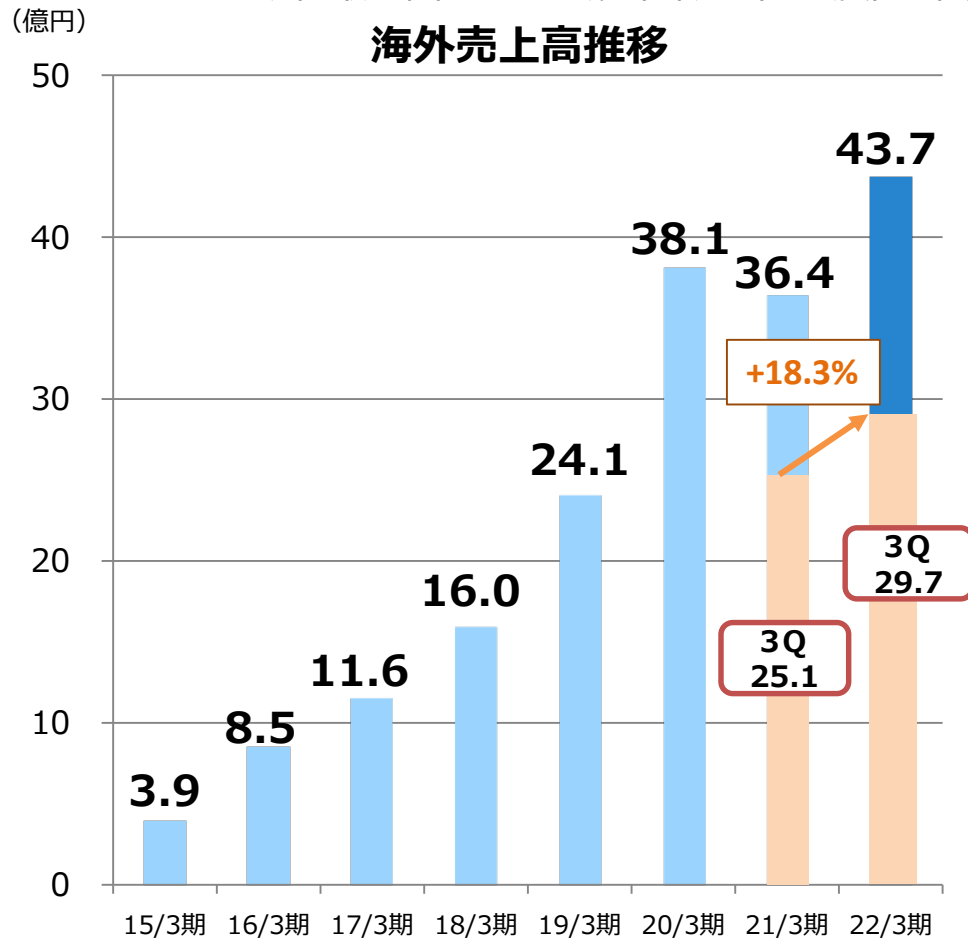


◆自己資本当期純利益率(ROE)



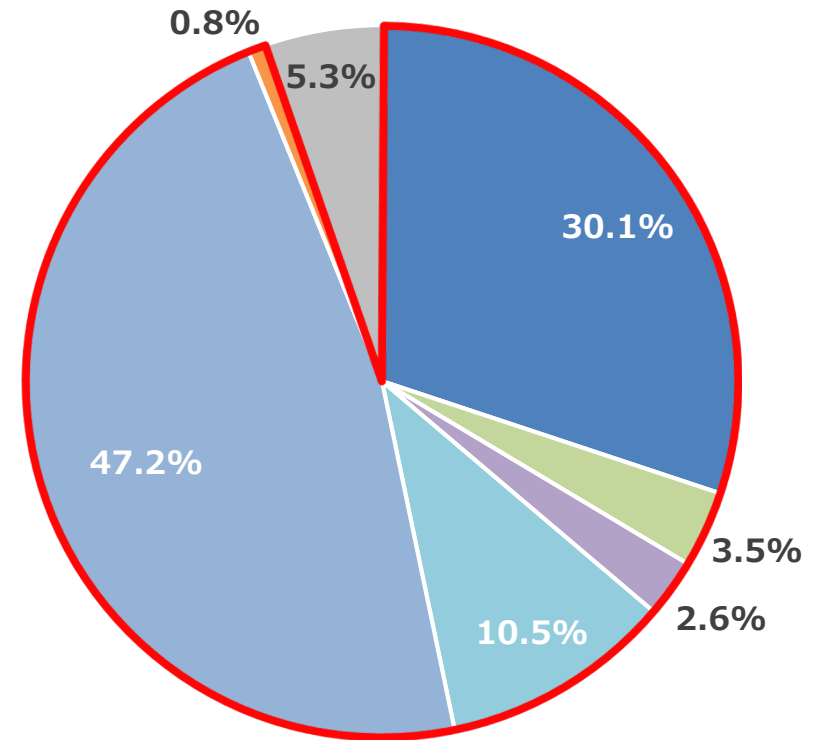
Made in Nippon/Japan Qualityを世界へ

アジア地域、ヨーロッパ地域を中心に **40以上の国と地域** に展開中
 既存取引国では、地域の特徴に即した展開を図りながら、未進出国へ積極的にアプローチを進めています



海外売上高構成比 (2022/3期 3Q)

■ 中国 ■ シンガポール ■ 台湾 ■ 英国 ■ 欧州 ■ その他現地法人 ■ 現地法人以外



当社初のシリコンハイドロゲル素材の1日使い捨てソフトコンタクトレンズ

- ・2021年2月よりスイス・デンマークを皮切りに海外において発売したSEED 1daySilfa。
- ・ドイツ Wöhlk社（当社子会社）の開発素材と当社設計デザインのコラボレーションで誕生した国産製品で、当社ならではの1箱32枚入り。
また、含水率が高く、Pureのようなハイドロゲルレンズに近い柔らかさが特長です。
- ・来期の国内販売開始に向けた準備及び販売戦略を策定しております。





・2021年12月に、薬機法上の重複業務を効率化するとともに、製品開発に迅速に対応できる体制を構築することを目的として出資子会社である(株)ユニバーサルビューを2022年3月31日（予定）に吸収合併することを決定。

・2021年11月に「プレスオーコレクト」にも使用できる酸素透過性ハードコンタクトレンズ用タンパク清浄液「correct clean（コレクトクリーン）」を発売し、販売促進活動を展開。



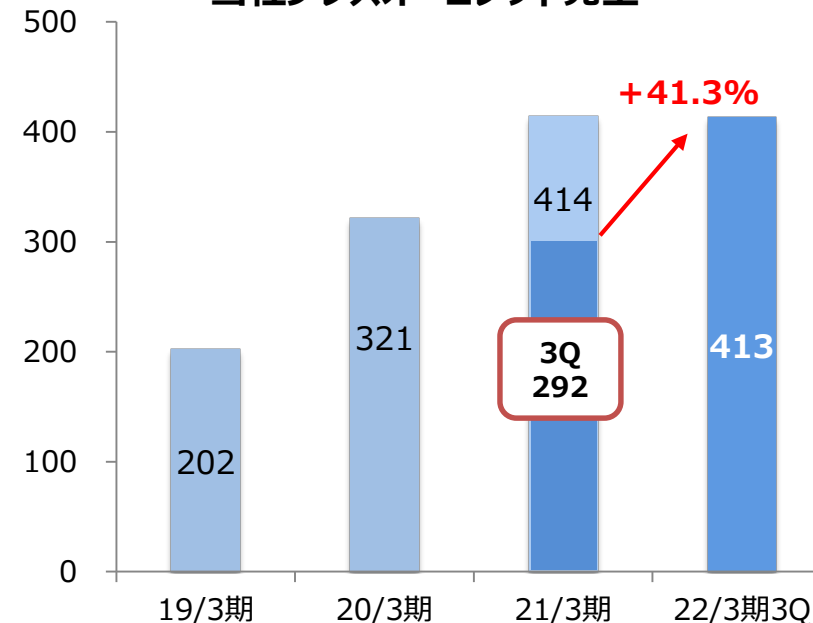
オルソケラトロジーとは？

オルソケラトロジーとは、近視及び近視性乱視の方が寝る時にレンズを装用することで、角膜形状を変化させ、脱着後の裸眼視力を改善させる治療法。

変化した角膜形状は一定時間維持され、その間の裸眼視力は改善される。

[百万円]
百万円未満切捨て

当社ブレスオーコレクト売上



オルソケラトロジーレンズの国内外での販売

日本国内、東南アジアにてUV社製品を販売中

中国：中国の合併会社の製品を2023年中に別途販売予定

欧州：Wöhlik社製品を欧州にて別途販売中

中長期的に株式を保有し、当社を応援してくださる株主の皆さまとの関係をさらに重視する方針に至り、2023年3月31日(基準日)の株主名簿に記載または記録された株主さまへの優待発送分より、新制度の適用を開始

※詳しくはホームページをご確認ください

<赤字部分が変更箇所> 株主優待基準日（毎年 3 月 31 日）現在の当社株主名簿に記載又は記録された 1 単元（100 株）以上を **1 年以上継続保有**（※）されている株主さま

| | 保有株式数 / 保有年数 | 1 年以上 |
|-------|--------------|-------------------|
| A コース | 100 株以上 | 株主優待券 |
| B コース | 100 株以上 | 当社コンタクトレンズケア用品セット |

1 ポイント = 1 円相当

| | 保有株式数 / 保有年数 | 1 年以上 3 年未満継続保有 | 3 年以上継続保有 |
|-------|---------------------|------------------------|------------------|
| C コース | 100 株以上 1,000 株未満 | 1,000 ポイント | 3,000 ポイント |
| | 1,000 株以上 3,000 株未満 | 3,000 ポイント | 5,000 ポイント |
| | 3,000 株以上 | 4,000 ポイント | 6,000 ポイント |

シードは、社会の持続可能な発展に貢献することを経営の重要課題の一つと捉え、その実現に向けた行動を企業の行動指針として掲げ、会社運営の全てにわたり、環境と調和した企業活動を遂行していくことを基本方針といたします

推進体制

環境方針に基づき、トップマネジメントから指名を受けた環境管理責任者が、具体的実施手法にブレークダウンし、各部署へ実施を指示。
実施状況について、チェックを行い、トップマネジメントに報告するサイクルを通じて持続的な改善を図ります。

循環型社会への対応

当社は取扱い製品の製造時に発生する廃棄物の抑制、再生利用等を通じ、循環型サイクルの構築により環境への負荷軽減に努めてまいります。

グリーン購入への対応

当社は品質や価格のみならず環境への負荷低減に努める事業者からの物品、サービスの購入に努めてまいります。

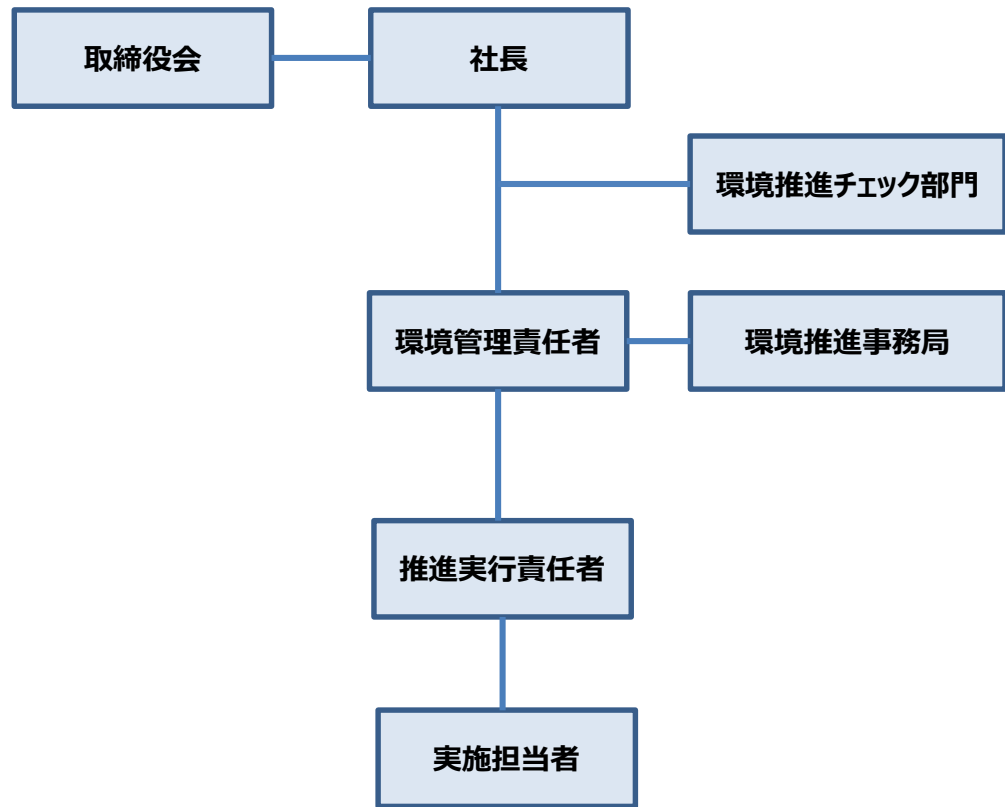
水資源の保全、有効活用

当社は事業活動に際し、効率的な水の利用およびリサイクルを通じた健全な水循環の構築に努めてまいります。

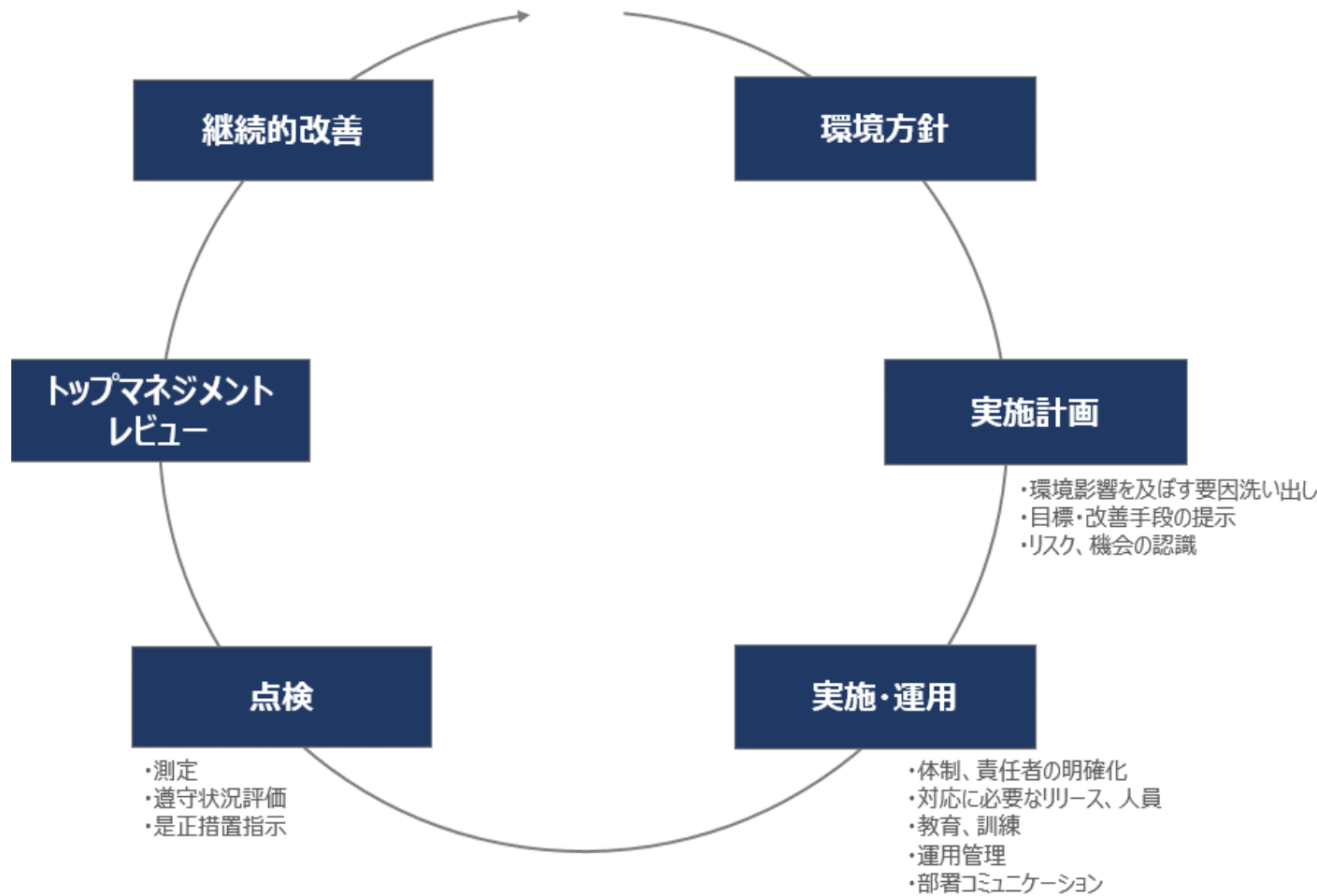
地球温暖化防止への取組み

当社は地球温暖化防止への取組みが重要課題であることを認識し、グループのあらゆる事業活動に由来する温室効果ガス排出量の継続的削減に努めてまいります。

推進体制



環境経営マネジメントシステム



SEED

「見える」をサポートします

みんな電力

・2013年にシード鴻巣研究所の1号棟に太陽光発電システムを導入してから、現在では研究施設すべての棟および保育・児童施設「ふくろうの森」の屋上に太陽光パネルを設置し、エネルギー使用量における再生可能エネルギーの割合増加と太陽光パネルの遮熱効果によるCO2排出量の削減を行っております。

・更にCO2排出量の削減を強化するため、株式会社UPDATER（旧みんな電力株式会社）を通じて、100%再生可能エネルギー電力への切り替えを実施することとなりました。



鴻巣研究所3号棟屋上の太陽光パネル

これからも、環境に配慮した取り組みにコミットし、カーボンニュートラルの実現を目指します。

1. 2022年3月期第3四半期 決算概要
2. 2022年3月期第3四半期 トピックス
- 3. プライム市場の上場維持基準適合状況および計画期間**
4. 2022年3月期 見通し
5. 参考資料

プライム市場上場維持基準の適合状況および計画期間

当社は、2021年10月11日開催の取締役会において、東京証券取引所の新市場区分について、プライム市場を選択し、その上場維持基準の充足を目指すことを決議いたしました。

上場維持基準の適合状況

| | 上場維持基準 (プライム市場) | 東証からの 一次判定結果 | 判定 |
|--------------|--------------------|-----------------|----|
| 株主数 | 800人以上 | 17,146人 | ○ |
| 流通株式数 | 20,000単位以上 | 104,318単位 | ○ |
| 流通株式 時価総額 | 100億円以上 | 81.4億円 | × |
| 1日平均 売買代金 | 0.2億円以上 | 0.45億円 | ○ |
| 流通株式比率 | 35%以上 | 41.6% | ○ |

当社の移行基準日（2021年6月30日）におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況は、「流通株式時価総額」については、基準を満たしておりません。

計画期間

『中期3ヶ年（2021年4月～2024年3月）経営計画書～「見える」に新たな価値を～』の最終年度となる「**2024年3月期末**」までに、「プライム市場の上場維持基準適合に向けた計画書」に記載する各種取組を進めてまいります。

「中期3ヶ年（2021年4月～2024年3月）経営計画書～「見える」に新たな価値を～」に基づき、市場競争力の強化・収益力の強化を進めるとともに、信頼されるモノづくり、SDGsの推進、株主還元施策に取り組むことで「流通株式時価総額の向上」を図ります。

また、株主への適切な情報発信と透明性の確保に努め、当社の持続的成長と利益水準の改善による中長期的な企業価値の向上を図ることで、プライム市場の上場維持基準への適合を目指してまいります。

【今後のプライム市場上場維持対策】 株価上昇による流通株式時価総額の向上

シードが目指す株価水準：1,100円

※東証1次判定結果に基づく、流通株式時価総額100億円に必要な株価水準：958円

★株式のボラティリティを考慮し、東証一次判定結果に基づく目標株価よりも、15%程度高い水準をシードが目指すべき目標株価として設定いたします。

1. 2022年3月期第3四半期 決算概要
2. 2022年3月期第3四半期 トピックス
3. プライム市場の上場維持基準適合状況および計画期間
- 4. 2022年3月期 見通し**
5. 参考資料

連結

[百万円] 百万円未満切捨て

| | 2021年3月期 | 2022年3月期見通し | ＜参考＞前期比較※ | |
|---------------------|----------|-------------|-----------|--------|
| | | | 増減額 | 増減率 |
| 売上高 | 28,617 | 29,500 | +883 | +3.1% |
| | | 30,210※ | +1,593 | +5.6% |
| 営業利益 | 1,195 | 1,250 | +55 | +4.5% |
| (営業利益率) | 4.2% | 4.1% | △0.1% | |
| 経常利益 | 1,211 | 1,150 | △61 | △5.1% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 1,129 | 600 | △529 | △46.9% |

※「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等適用前とした場合の売上高です。営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益への影響はありません。

- 売上高 : EDOF、View Support、オルソ等高付加価値レンズの販売強化等により、売上高の回復とマーケットシェアを維持
- 営業利益 : 破棄・工程内のムダ削減による粗利率の向上。競争力維持のための投資は実施

国内営業

- ・Pureシリーズを中心とした、新規患者の創造
- ・**積極的な営業活動を行い、遠近（EDOF）、View Support、オルソを伸ばす**
- ・新色を発売し、カラコンのシェア拡大
- ・DXを活用し、物流も含めたサービスの向上

海外営業

- ・**販売国・販売商品など「面」を増やす販売戦略を継続**
- ・戦略商品（EDOF、Silfa、オルソ）の拡大
- ・中国現法は変化の激しい市場環境に適応し、海外事業の中心となって全体をけん引

財務の健全性強化

- ・**連結収支改善、連結子会社の黒字化**
- ・廃棄ロスの削減、粗利率の向上
- ・借入金の圧縮

生産体制

- ・さらなる生産の効率化、省人化
- ・生産計画に基づく生産数の実現と、適正在庫の維持
- ・**シリコンハイドロゲル素材を用いた製品の増産体制確立**

研究開発

- ・**医薬品を配合したコンタクトレンズの実用化**の推進
- ・**近視進行抑制分野**への展開を目指した製品の開発の推進
- ・**センシング技術**に関する研究開発の推進

その他

- ・**プライム市場**への移行を目指し、企業価値のさらなる向上
- ・**企業ブランディング**
- ・本社老朽化に対応し、2024年新社屋設立に向け、準備を開始

2021年11月12日開示 3ヶ年中期経営計画

～「見える」に新たな価値を～

最先端の技術を活用し、高機能・高付加価値の
コンタクトレンズを開発し、市場に新しい価値を提供していく

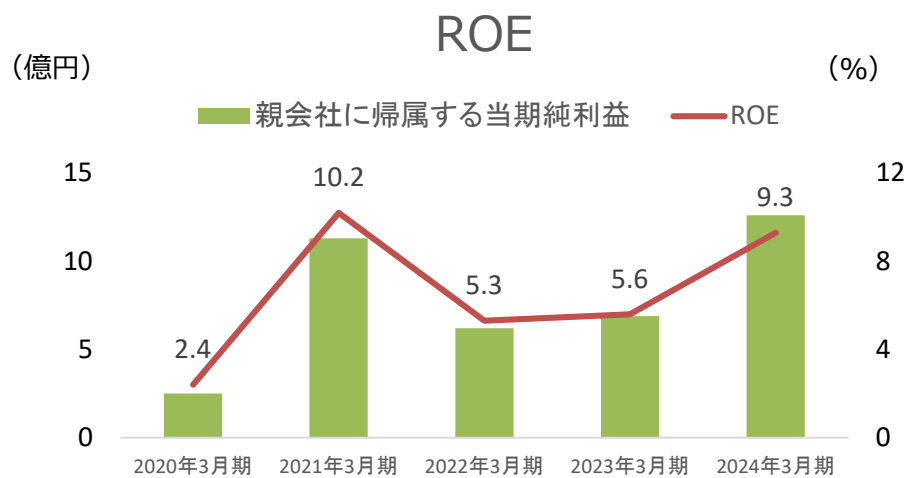
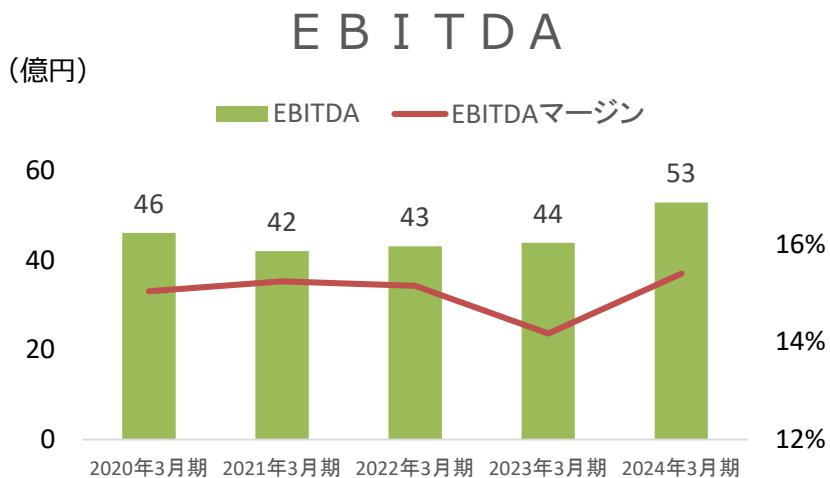
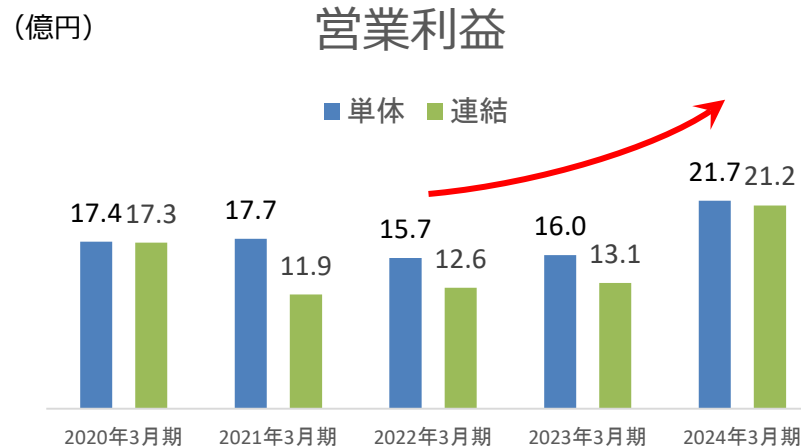
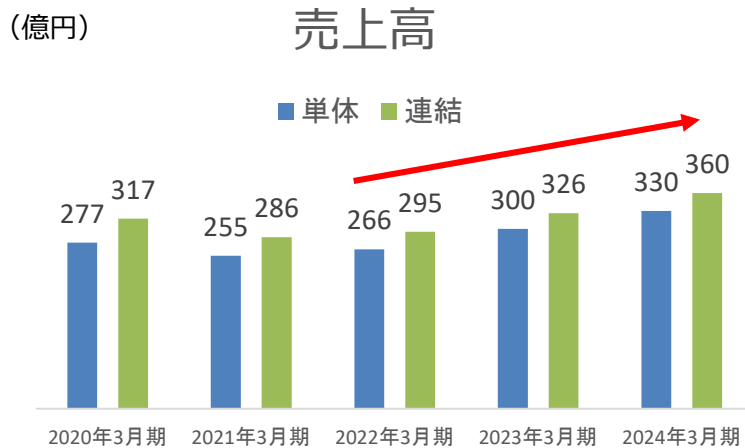
（中期計画の位置付け）

効率的な生産の実現と更なる品質の向上
非価格競争力のある商品の開発
連結売上高400億円への足場を固める

（シードの主要施策）

“『Made in Nippon』と『Japan Quality』のプライドを通じて
安全で高品質な製品とサービスを提供することを追求”

日本国内での安定した成長と同時に、積極果敢な世界展開を実現
積極的に研究開発費用を投下し、計画的かつ確実な研究成果（商品開発）を実現
省人化・自動化などの技術力の向上により、規模の拡大と多品種少量生産を実現
検査用・治療用・医療用等の新たな付加価値をコンタクトレンズで実現
ダイバシティーとインクルージョンの推進及びカーボンニュートラルへの取り組みを実施



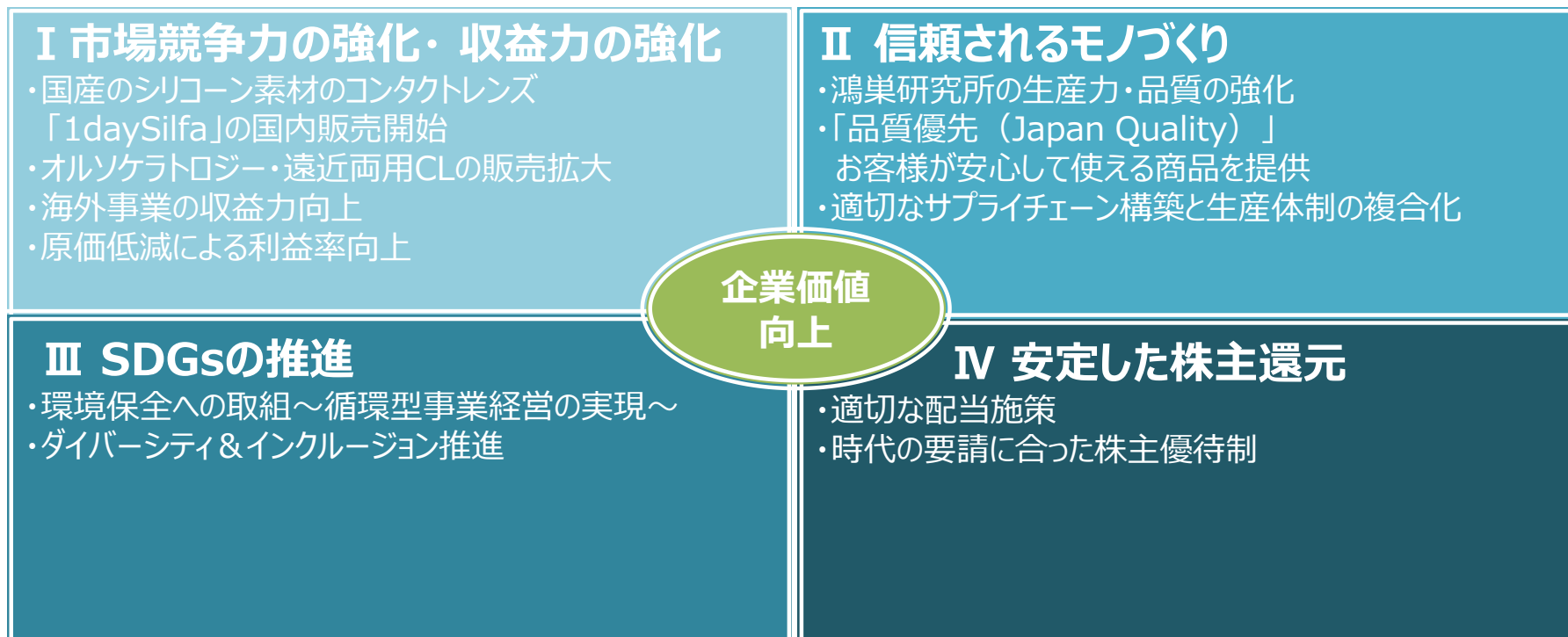
- 2024年3月期は連結売上高 360億円とし、連結売上高 400億円への足場を固める
- 利益構造の改善を継続し、営業利益ベースでの増益を継続する
- キャッシュ創出力を強化し、EBITDA 50億円を達成する
- 利益効率を高め、ROE 10%を目指す

※2022年3月期より、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用

【企業価値を高め、継続的な成長を実現】

- 財務健全性を堅持しつつ資産効率を高める
- プライム市場へ移行し、上場維持基準への適合を達成する
- 創業65周年の節目を迎え、当社の存在意義を発信する

【企業価値を高め、継続的な成長を実現】するための4本の柱



1. 2022年3月期第3四半期 決算概要
2. 2022年3月期第3四半期 トピックス
3. プライム市場の上場維持基準適合状況および計画期間
4. 2022年3月期 見通し
5. **参考資料**

- 本社：東京都文京区本郷二丁目40番2号
- 設立：1957年10月9日(昭和32年)
- 上場：1989年12月(平成元年12月) 店頭公開(現 JASDAQ市場) 証券コード：7743
- 資本金：1,841百万円
- 従業員：996名(連結) ※2021年12月末現在
- 営業所：8 (札幌・東京・名古屋・大阪・福岡 他)、その他駐在12 (盛岡・静岡 他) ※2021年12月末現在
- 工場・研究所：シード鴻巣研究所(埼玉県鴻巣市)
- 沿革
1957年10月 会社設立 商号「(株)東京コンタクトレンズ研究所」
1985年11月 ブランド名をマイコンから「シード(SEED)」に変更
1987年2月 商号変更「(株)シード」
2007年7月 鴻巣研究所を竣工
2011年1月 鴻巣研究所 ISO13485取得、CEマーキング指令適合
2014年3月 東京証券取引所市場第二部に市場変更
2014年8月 鴻巣研究所2号棟竣工
2016年6月 研究棟竣工
2017年3月 東京証券取引所市場第一部に指定
2017年9月 鴻巣研究所3号棟竣工
2017年10月 おかげさまで創立60周年
2018年4月 保育・児童施設 ふくろうの森 開園
2020年11月 鴻巣研究所 製品・資材倉庫棟 新設



「東京コンタクトレンズ研究所」
当時の社屋



鴻巣研究所



保育・児童施設 ふくろうの森

取扱商品 | コンタクトレンズ

1day・2weekからハードコンタクトレンズまで、幅広い商品展開で細分化するニーズにきめ細かく対応しています。

■純国産Pureシリーズ



シード1dayPure
うるおいプラス



シード1dayPure
View Support



シード1dayPure
EDOF



シード2weekPure
うるおいプラス



シード1dayFine UV plus

乱視用



シード1dayPure
うるおいプラス乱視用

遠近両用



シード1dayPure
マルチステージ

乱視用



シード2weekPure
うるおいプラス乱視用

遠近両用



シード2weekPure
マルチステージ

■Fineシリーズ



シード2weekFine UV plus

■サークルレンズ

NEW



シード Eye coffret 1day UV M



ヒロインメイク
1day UV M

NEW

乱視用



シード Eye coffret 1day UV M View Support
シード Eye coffret 1day UV M TORIC

■カラーレンズ



ジルスチュアート 1day UV



■従来型コンタクトレンズ

ハードコンタクトレンズ
全7種8品

ソフトコンタクトレンズ
全3種

■オルソケラトロジーレンズ

プレスオーコレクト

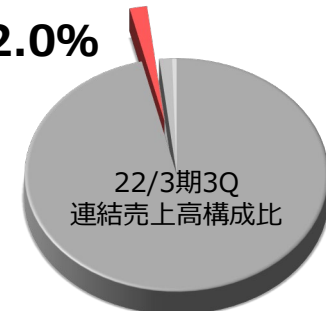
■特殊レンズ

シード 虹彩付ソフト
シード Bi-Expert
ユーソフト

コンタクトレンズケア用品事業

コンタクトレンズを快適にお使いいただくためのケア用品を各種提供しています。

2.0%



コレクトクリーン
オルソケラトロジーレンズ（プレスオーコレクト）他・
酸素透過性ハードコンタクトレンズ用 タンパク洗浄液



フォレストリーフ
ソフトコンタクトレンズ用
洗浄・保存・すすぎ液



ピュアティモイスト
酸素透過性ハードコンタクトレンズ用
酵素洗浄保存液

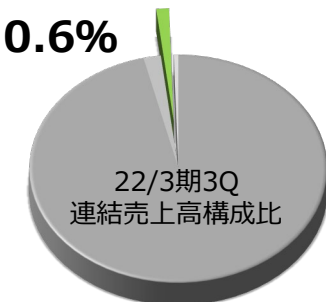


ジェルクリンW
酸素透過性ハード・
ソフトコンタクトレンズ用洗浄液

眼鏡事業

イメージキャラクターを採用したオリジナルブランドのメガネフレームなどを展開していましたが、
2022年3月末日をもちまして同事業から撤退し、業務を終了いたします。

0.6%



Plusnix
eye wear



プラスニックス
松岡広大さんイメージキャラクター



Vivid Moon
eye wear



ビビッドムーン
北川景子さんイメージキャラクター



Pheasant



FACET
femme



プラスチックを主要材料とするコンタクトレンズを製造している責任として、製造過程において排出されるプラスチックやお客様の手に渡った後のプラスチックケースのリサイクルに取り組んでいます。

産業廃棄物を有価物として再資源化

プラスチック混合物の再資源化フロー構築

シード鴻巣研究所のコンタクトレンズ製造工程で産業廃棄物として処理していたプラスチック混合物を有価物として再資源化するフローをリサイクル業者と共同で2021年4月に構築いたしました。



プラスチック高度リサイクル・システム「ドックス」

BLUE SEED PROJECT ～海に愛(Eye)を～

プラスチックケースのリサイクル

プラスチック製品を製造している企業としての責任から、持続可能な社会を目指し発足したプロジェクトです。



2019年7月～2022年2月までに
2,700kgのブリスターを回収し、リサイクル事業者へ提供

眼科・販売店192店舗（子会社含む）、12企業※に回収箱設置のご協力を
いただいております、順次拡大しております。

※2022年2月現在

シードグループでは、福利厚生充実、そして従業員の株価意識の向上を目的として、従業員持株会制度を設けています

・従業員は自身の毎月の給与・賞与から、少額から株式を継続購入することができ、シードは15%の奨励金を援助しています。
また、社内イントラネットなどを通じて従業員の資産形成と働きがいの醸成にもつなげています。

※インサイダー取引規制の適用除外

従業員持株会は定時定額の買い付けを行うことが原則となっており、定時定額に買い付けている限りにおいては、金融商品取引法第166条におけるインサイダー取引規制の適用を受けません。

※一定職以上の社員が株式を売却する場合は、売却前に管理本部長の承認などの社内手続きが必要な体制となっております。



国内関係会社

*株式会社シードアイサービス

横浜近視予防研究所株式会社

*株式会社ユニバーサルビュー

海外子会社

*上海実瞳光学科技有限公司 (中華人民共和国)

*SEED Contact Lens Europe GmbH
(ドイツ)

上海実瞳商務咨询有限公司 (中華人民共和国)

*Wöhlk Contactlinsen GmbH
(ドイツ)

*台湾實瞳股份有限公司 (台湾)

*Wöhlk-Contact-Linsen Vertriebs GmbH
(オーストリア)

*SEED CONTACTLENS ASIA PTE.LTD.
(シンガポール共和国)

*Sensimed SA
(スイス)

*Contact Lens Precision Laboratories Ltd.
(イギリス)

SEED CONTACT LENS (M)SDN.BHD
(マレーシア)

*Ultravision international Ltd.
(イギリス)

SEED CONTACT LENS (ANZ) PTY LTD.
(オーストラリア)

*SEED INTERNATIONAL LTD.
(イギリス)

SEED CONTACT LENS VIET NAM CO, LTD.
(ベトナム)

SEED

「見える」をサポートします

本資料に関するお問い合わせ

株式会社シード 経営企画部

TEL 03-3813-1650

またはホームページお問い合わせフォーム

<https://www.seed.co.jp/contact/>

当資料の見込みに関しては、現時点において入手可能な情報及び当社の計画・戦略に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後の経済情勢・業界動向等、様々な要因により異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

本資料の見通しや目標数値等に全面的に依存しての投資判断により生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。